

〔文德實錄四〕仁壽二年二月乙巳、參議正四位下兼行宮内卿相模守滋野朝臣貞主卒。○中嘉祥二年春兼尾張守于時太宰府吏多不良衰弊日甚貞主上表曰夫太宰府者西極之大壞中國之領袖也東以長門爲關西以新羅爲拒加以九國二島郡縣闊遠自古于今以爲重鎮。○下

〔榮花物語五〕そのおりの大貳宰大は有國朝臣なり。○中御せうそこ我子のよしなりして申させたり思がけぬかたにおはしましたるに京のこともおぼつかなくおどろきながら参りさぶらふべきに九國の守にさぶらふ身なればさすがに思のまにえまかりありかぬになむ。○下略

〔安西軍策〕惠林院義植卿頼犬内義興事

義植卿ハ鞆ニテ改行年ヲ越給ヘバ九國ヨリ大友菊池龍造寺小田島津伊藤星野松浦相良宗像已下打連々舞ニ取乘春風ニ得意鞆浦ニ著ニケル。

〔川角太閤記三〕一越中の國佐々内藏助秀吉は四國九國えとり出すなれば定隙入可有と油斷可仕なり。

〔書言字考節用集十〕九州筑前後肥前後豐前後薩摩大隅日向

〔吾妻鏡四〕元暦二年○文治元年三月九日壬辰熊野別當湛増依廷尉○源引級承追討使去比渡讚岐國

今又可入九州之由有其聞。

〔簾中抄下國〕西海道九國二島筑紫と云又鎮西。

〔書言字考節用集一〕乾坤筑紫西海道都謂之筑紫又

〔釋日本紀五〕筑紫洲

私記曰問此號若有意哉答先儒之說有四義一云此地形如木兔之體故名之也木兔鳥之名此云都久二脫云二下恐公望案筑後國風土記云筑後國者本與筑前國合爲一國昔此兩國之間山有峻狭坂